



With you

ウィズユー

日本国連HCR協会ニュースレター

No.4 2005年 第1号



目次

- スーダン難民に緊急支援を！ 2
- スーダンの南北和平とダルフール地方の人道危機
- UNHCRとインド洋大津波被災者支援 3
- 6月20日は「世界難民の日」
- アフリカ難民に教育を！ 4
- アフガン帰還民に家を！
- アフリカ難民に水を！ 5
- 支援者の声 / 「毎月倶楽部」 / ご寄附の方法
- 難民支援のチャリティ・イベント 6



津波被災者への支援 →3ページ



津波被災者に援助物資を届けるUNHCR(スリランカ)
UNHCR / M. Sivanesan

日本国連HCR協会はUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)の公式寄附窓口です。



スーダン難民に緊急支援を！

日本国連HCR協会では、2004年3月より、スーダン西部ダルフール地方からのスーダン難民支援を呼びかけています。難民が多く避難しているチャド東部で援助活動に携わっている岩佐洋子さんより支援者の皆様にメッセージと現地の写真が届きました。写真(全18点)はHCR協会のホームページ上でご覧になれます。

日本の支援者の皆様へ

UNHCR アベシエ事務所 岩佐 洋子

私は、タイのUNHCR事務所で2年間勤務した後、2004年9月より、チャド東部の町アベシエのUNHCR事務所にて法務を担当しております。チャドでは、スーダン西部ダルフール地方から逃れてきた難民の保護と支援に携わっています。

チャド東部には、2003年にスーダンのダルフール地方で発生した内戦を逃れ、現在までに約20万人の難民が脱出しています。最初の難民キャンプが開設された2004年1月には、キャンプで生活する難民は1000人以下でしたが、国際社会の支援を受け、現在では11のキャンプで20万人の難民が暮らしています。キャンプの難民の80%は女性と子どもで、男性は紛争で殺されたり、スーダンに残って戦闘に参加したりしている人が多いと聞きます。命からがらチャドに逃れてきた人も、故郷で家族を殺害されたり、家を襲撃されたり、暴力を受けたりしたことトラウマ(精神的ショック)を抱えている人も多く、UNHCRではそのような難民のケアに取り組んでいます。

ダルフール地方の内戦の状況はまだまだ不安定で、いつ再び大量の難民がチャドに脱出してくるか、状況は予断を許しません。また、現存のキャンプにいる難

民数が収容能力を超えているため、スーダンとの国境付近にいる難民で、キャンプに入ることを希望しても入ることのできない人もいます。このような難民のニーズに応え、新たに難民が脱出してきた場合に備えるためにも、UNHCRでは、新たなキャンプの設営準備を進めています。

冬の到来に伴い、夏の間はとて暑く、チャドでも、北方地域では、夜はとて寒くなりました。キャンプで生活している難民の中にも、テントが不足しているため、現在もビニールシートの下で暮らしている人もいます。

難民支援活動を行う人道支援機関の職員も、厳しい環境の中で仕事をしています。たとえば、チャド東部で仕事をしているUNHCR職員の多くは、オフィスの敷地内に設営されたテントを一人1張りを与えられ、そこで暮らしています。気温が6度まで下がる冬には、テントの窓から吹き込む砂と冷たい風から身を守るため、毛布を何枚もかけて寝ています。

スーダン難民の支援活動に携わる者の一人として、自分の母国の方々がスーダン難民の支援に関心を持ってくださり、難民への支援が高まることは、大変心強く、励みになります。皆様のご寄附に心よりお礼申し上げますとともに、今後ともスーダン難民をご支援くださるようお願い申し上げます。 2005年1月7日記



スーダン難民の子どもたちと岩佐さん



アムナバック難民キャンプ



砂嵐のなかで登録を待つスーダン難民

スーダンの南北和平とダルフール地方の人道危機

スーダンで20年以上続いた南北間の内戦を終結させる包括的和平協定が、2005年1月9日、ケニアの首都ナイロビで、バシール政権と反政府勢力のSPLA(スーダン人民解放軍)によって調印されました。周辺諸国に逃れた50万人のスーダン難民や、300万人の国内避難民のうち数10万人が既に故郷に向かって移動を始め、UNHCR緊急対応チームが、支援活動を開始しています。UNHCRは

スーダン難民の帰還・再定住に約60億円を必要としています。

南北和平が合意されたにもかかわらず、スーダン西部ダルフール地方における人道危機が続いています。この南北の和平協定にダルフール地方は含まれておらず、引き続き民兵による住民への襲撃が報告されています。UNHCRはチャド東部にすでに逃れたスーダン難民20万人の援助活動と、さらに10万人が流入

する事態に備えるため、難民キャンプの増設などを含め、2005年度に約57億円を必要としています。ダルフールに残る国内避難民160万人に対しても、毛布などの援助物資の支給や性的虐待を受けた女性へのカウンセリングなどの援助活動を進めています。ダルフールの国内避難民支援に約27億円を必要としています。

ご支援ありがとうございました。
ご寄附：6970万1068円 件数：2794件
(2004年3月1日～2005年1月31日)

注：昨年3月以降、「緊急ファンド」をスーダン難民支援に充当してきましたが、2005年4月1日以降は「スーダン難民」とご指定ください。「緊急ファンド」は本来の目的である次の緊急事態に即応するためのご寄附とさせていただきます。

「私は今着ている服以外、全てを失った……」

(インドネシアのムラボー在住の男性)

UNHCRとインド洋大津波被災者支援

ス マトラ島沖で発生した大地震による大津波がインド洋周辺諸国に大惨事をもたらしました。死者・行方不明者の総数は30万人に上ります。難民支援がUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）の本来の職務ですが、今回の甚大な被害を考慮して、アナン国連事務総長からUNHCRにも協力要請がありました。被災地域周辺にUNHCRの現地事務所がすでに存在すること、UNHCRが津波以前より被災地域で難民・避難民の援助活動を続け、被災者の中にUNHCRの援助対象者も多く含まれること、半世紀以上にわたる難民支援活動の経験などが今回の津波被災者支援に活かされています。

UNHCRはインドネシア、スリランカ、ソマリアで津波被災者の援助活動を行っています。その援助活動のため、6ヵ月で約77億円を必要とし、支援を呼びかけました。民間の皆様からのご寄附および日本国政府からの拠出金



UNHCR提供の簡易診療所(スリランカ)
UNHCR / S. Bahadur



UNHCRが支給したビニールシートを屋根代わりに使う被災者(インドネシア) UNHCR / T. Pengilly

などを含め、活動資金の大部分が確保される見通しとなりました。UNHCRの活動資金のうち、インドネシアでの援助活動に約61億2000万円、スリランカに約15億6500万円、ソマリアに約5100万円が予定されています。

UNHCRはデンマークやアラブ首長国連邦、パキスタン、ヨルダンなどにある備蓄倉庫から、食糧以外の援助物資を被災地域に空輸しました。たとえばインドネシアでは、毛布10万枚、調理器具2万セット、

ピニールシート2万枚、水を汲む容器2万個、テント200張りなど、大量の物資を被災者に支給しました。また17万5000人を対象にテントを含む仮設住宅の提供を行っています。

UNHCRはもっとも被害が深刻といわれるアチェ州の西岸地区での活動に重点を置いています。陸路が使えないため、スイス政府提供のヘリコプター3機を使って援助物資を届けています。ソマリアでは毛布3万2500枚、ピニールシート1万枚、調理器具1万5000セット、水を汲む容器1万個などが随時、被災者に届けられています。

内戦状態が長かったスリランカではUNHCRは国内避難民の支援や帰還事業を20年近く行っています。UNHCRが支援している39万人の多くが津波の



瓦礫のなかで洗濯する被災者(スリランカ)
UNHCR / N. Behring

被害に遭いました。スリランカのUNHCR職員は、文字通り津波発生直後から24時間体制で援助活動を続けました。たとえば、壊れた屋根代わりなどさまざまな用途に使えるピニールシートはすでに約16万人に支給されました。

今回の大津波の被害に対して、各国政府、国連機関、そしてNGO（非政府組織）が連携し大規模な緊急援助活動を展開したことは非常に良い前例となりました。それを支えてくださったのは皆様一人ひとりです。HCR協会を通じてUNHCRの津波被災者援助活動に迅速なご支援をお寄せくださった皆様に深く感謝申し上げます。

ご支援ありがとうございました。
ご寄附：1552万1907円 件数：576件
(2004年12月27日～2005年1月31日)

6月20日は「世界難民の日」 今年のテーマは「勇気」



2000年の12月4日、国連総会で毎年6月20日を「世界難民の日」(World Refugee Day)とすることが決議されました。6月20日はもともとOAU(アフリカ統一機構)難民条約の発効を記念する「アフリカ難民の日」でした。それを「世界難民の日」とすることによって、難民の保護と援助

に対する世界的な関心が高まること期待されています。5回目となる今年のテーマは「勇気」。困難な日々になげずに生き抜こうとする難民の勇気、家族や友人と離れた異郷の厳しい環境の中で難民の保護・援助に献身的に取り組むUNHCR職員の勇気に目を向けてください。

UNHCR駐日地域事務所とHCR協会では、5月と6月を「世界難民の日」記念キャンペーン期間として、日本各地で「世界難民の日」に関連する催しを主催してくださる方を募集しています。地域の仲間で、難民問題を考える機会を作ってみませんか？

催しのご連絡をいただければ、ホームページ等で、全国に紹介させていただきます。(詳細は、HCR協会ホームページをご参照ください)

アフリカ難民に教育を！



大豆やとうもろこしを水で溶いた栄養価の高い飲み物を一緒に飲む菊川さん UNHCR / R. Hakozaiki

UNHCRスペシャルサポーター菊川怜さん ケニアのダダブ難民キャンプを訪問

女 優の菊川怜さんがUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）スペシャルサポーターとして、1月17日から4日間、ソマリア難民が多く住むケニアのダダブ難民キャンプを訪問しました。雨期が終わったばかりのため緑が点在したものの、日中は40度を超える暑さでした。

その一部は日本テレビ「真相報道バンキシャ！」の中で紹介されました。菊川さんは、難民キャンプ内にある食糧配給所、病院、小学校、水汲み場などを訪れました。小学校では、自国で教育を受ける機会がなかった青年たちが、医者やパイロットになりたいと夢を語るのに耳を傾けました。多くのソマリア難民が、いまだに故郷に帰りたくても帰れず、キャンプから出たくても出られない、出口の見えない日々を生きています。

UNHCR職員として現地で菊川さんを迎えた高嶋由美子さんは、次のように話しています。「生きていかなくはという時から、やがて生活を確立する時期に入ってくると、あれもないこれもないと問題は増えてくると思います。なるべく人々からの訴えを聞くようにしています。話をすることで少しは落ち着くと思

うので、聞くことが一番重要な仕事だと思っています」「つらいけれど感情に流されずに、人道的な支援をする者として、どこまでやっていけるかが大きな挑戦だと思います。」

UNHCRでは、民間からのご寄附を活用して、ソマリア難民・帰還民の女子教育を支援する事業を進めています。

ソマリアでは、1990年代初めに起きた内戦によって、数10万人もの人々が故郷を追われました。今も約13万人がケニアのダダブ難民キャンプで暮らしています。キャンプでは、学齢期に達している子どもの約半分が学校に通っています。しかし教室を見回してみると、女子は約3分の1程度に過ぎません。

皆様からのご寄附によって、2004年度だけで新しく48教室が建設されました。また、新たに800個の机が入ったことで、6人もの子どもがひとつのベンチに詰め座る必要がなくなりました。UNHCRは、本や制服も提供しました。子どもたちの健全な育成には、教室での学習だけではなく、自由にバレーボールやパドミントンに興じることも大切です。子ども

たちが自信を身につけ、異なる民族をひとつにまとめるためにも、UNHCRはスポーツを奨励しています。

ダダブ・キャンプで教育を受けた難民の中からは、教師も育成されつつあります。UNHCRは、とりわけ女性の教師を雇用し訓練するように務めています。彼女たちが模範となり、多くの女子が教育をきちんと受けようと努力するからです。過去1年間で1000人を越える女子がキャンプの学校に通い始めました。

キャンプではまだ2万人以上の子どもが学校に通っていません。彼らが教室の中に居場所を見つけることができるように、このプロジェクトは2007年まで継続されます。

ご支援ありがとうございました。
ご寄附：2450万7277円 件数：581件
(2004年1月1日～12月31日)



アフガン帰還民に家を！

UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）は難民キャンプで避難生活を送る難民だけではなく、故郷に平和が戻り、自主的に帰還する難民の支援も行っています。パキスタンやイラン

に逃れていた約600万人のアフガン難民の帰還が、タリバン政権崩壊後の2002年春より本格化し、すでに350万人がアフガニスタンに戻りました。UNHCRは故郷へ戻るための交通費や

当面の生活費の一部などを支給し、帰還を支援しています。また帰還後の再定住を促進するため、長年の内戦で破壊された家屋を再建するための支援を続けています。2004年は再建予定数を下回りましたが、1万2569戸再建し、2002年から累計10万3713戸が再建されました。

「故郷に戻って自分の家を見たとき、家族を連れてカブ

ルに移ろうと思いました。なぜなら破壊された家を再建するお金を私は持っていなかったからです。そんなとき、UNHCRが再建を支援してくれると聞いたのです。今はカブールに行かなくて良かったと思っています。カブールで家賃を払っていたら貯金を使い果たし、家族を養うことができなくなっていたでしょうから」（カブールから北に50キロ、カラバー村のシャー・モハメッドさんのコメント）

2005年には約70万人が帰還すると想定し、2万1500戸の再建を目標に約65億円を必要としています。

夏は暑く冬は冷え込む厳しい自然環境の中で、住宅を再建するアフガン帰還民をご支援ください。

ご支援ありがとうございました。
ご寄附：1381万3525円 件数：471件
(2004年1月1日～12月31日)



家族みんなで再建作業を行う帰還民 UNHCR / M. Shinohara

アフリカ難民に水を!

日本でも夏になると水不足になることが多々あります。しかし、世界にはもっと深刻な命を左右する水不足に直面している人々が多くいます。慢性的な水不足に苦しむ人々は世界29カ国で4億5000万人、6人に1人は安全な飲料水を手に入れることができません。水は飲むだけでなく、手を洗ったり、洗濯をしたり、清潔な衛生状態を保つため欠かすことができません。世界で20億人以上の人々は適切な衛生状態になく、水を原因とする病気は8秒に1人のペースで幼児の命を奪い、途上国の死因の80%を占めます(参考:“Refugees”Volume 3, Number 132, 2003)。汚染された水によって伝染する危険性が特に大きいのは、下痢、赤痢、伝染性肝炎です。

戦争や内乱により、故郷を追われた難民や避難民にとって安全な水を確保することは非常に困難であることは言うまでもありません。難民が発生する国や受け入れる隣国は往々にして豊かではない国が多く、水道のようなインフラが整備されていません。飲むだけでなく炊事・



キャンプに辿り着き、先ず水を求める
スーダン難民 HCR協会 / 井上清治

洗濯等を含め、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)は難民一人あたり一日15リットルの水を支給することを目標としています。これは日本の水洗トイレが流す水量の約1.5回分に相当します。難民キャンプでの給水所はキャンプの居住空間から100メートル以内、つまり徒歩数分以内にあるのが理想的です。また、難民80~100人につき1個の給水栓、井戸1本に対する難民の数は200人以下が望ましいとされますが、なかなか理想どおりにはいきません。

淡水は地下水(湧き水、井戸による地下水脈)、雨水、地表水(川や池)の3種類に分類することができます。地表水は汚染されている可能性が高く、地下水がもっとも安全と思われます。最近では宇宙からの立体映像による地質や高低差の分析から水脈を発見し、井戸を掘削するという手法が取られることもあります。

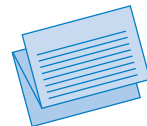
アフリカ各地で行われているUNHCRの給水事業へのご支援をお願いします。

ご支援ありがとうございました。
ご寄附: 805万8086円 件数: 832件
(2004年1月1日~12月31日)



チャド東部のスーダン難民キャンプにある5000リットル入りの水タンク HCR協会 / 井上清治

支援者の声



多くの人々に支えられている難民援助活動ですが、お小遣いやお年玉を一生懸命貯めたという中学生から多額のご支援とお手紙をいただきました。

私が今回寄附したきっかけは、あるテレビ番組で、「アフリカの国の人々が日本を含めた先進国の人達のために、自分たちの食糧などを作る畑を先進国の人たちが必要とする作物の畑に変えてしまった」ということを聞いたからです。アフリカの人々が困っているのが私たちのせいでもあると知りショックでした。

その時に私ができることを見つけて、できることをしていこうと思いました。そんなことを考えているときに、HCR協会からの資料が届きました。それを見て、今までに貯めてきたお年玉やおこづかいを寄附させていただきます。

今、日本の生活は豊かで特に困ることもありません。そんな生活の中にいる私たちは、一人ひとりが難民の人々のことを知って何か協力すべきだと思います。そして先ずは理解することが始まりだと思います。これからも機会があったら役に立つことをしていきたいと考えています。

(神奈川県 瀬戸亜也子さん 中学3年生)

編集部: 多額のご寄附をありがとうございました。難民の約半分は子どもたちです。同世代の亜也子さんの優しい気持ちや難民の子どもたちにも届いたと思います。

「毎月倶楽部」に参加しませんか?

皆様の銀行や郵便口座から毎月自動引き落としにより、難民支援にご寄附いただく「毎月倶楽部」は、毎月1000円から参加していただけます。

恒常的に資金不足のUNHCRにとって、「毎月倶楽部」による継続的なご支援は非

常に心強いものです。毎月1000円でも1年で1万2000円のご寄附となり、テント1張りや調達できます。つまり難民一家族が雨や風や砂嵐から身を守ることができるようになります。

適宜ご支援くださる皆様に心から感謝

申し上げるとともに、「毎月倶楽部」による継続的なご支援も合わせてご検討いただければ幸いです。お昼のコーヒー数杯分、あるいは週末の映画1本分を世界の難民のために……。ご希望の方には申込用紙をお送りします。

ご寄附の方法いろいろ

日本国連HCR協会はUNHCRの日本における公式寄附窓口です。

HCR協会では、以下の方法でご寄附を常時お受けしています。ご寄附は税控除の対象となります。

郵便局(振込手数料はHCR協会がお支払いする「加入者負担」です)

郵便振替口座: 00140-6-569575

加入者名: HCR協会

銀行 UFJ銀行 青山支店 普通

口座 5251034 三井住友銀行 渋谷駅前支店 普通口座 3478195

口座名(・共通): エイチシーアールキョウカイ

銀行からのお振り込みはお名前の一部しか表示されません。受領証やニュースレター発送のため、必ず皆様のご住所等をHCR協会へお知らせください。

毎月倶楽部

毎月自動引き落としによるご寄附。1000円以上(千円単位)でご協力ください。

ご希望の方には申込書をお送りします。

遺贈および相続財産のご寄附

遺贈や相続財産のご寄附をお考えの方は当協会にご相談ください。パンフレットをお送りします。

インターネット募金

ホームページでお申し込み後、郵便局やコンビニでお振り込みいただける用紙がお手元に届きます。あるいは銀行振込やクレジットカードでも可能です。

<http://www.japanforunhcr.org>

音楽とアートを通じた 難民支援のコラボレーション



コンサート関係者全員集合

助っ人会員*の駿河由知さんが会社の仲間と始めた「はたらくおじさんおねえさんのチャリティーコンサート」の第6回が、昨年12月、東京池袋で開催されました。今回は同じ助っ人会員である歌手の庄野真代さんがゲスト出演し、アートセラピストの岩森みすずさんが会場でアートセラピーを行いました。入場料全額がUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）の活動に寄附され、累計ではすでに215万2112円に上ります。駿河さんと庄野さんと岩森さんに、それぞれの難民支援への思いをお聞きしました。



駿河さん

難民支援へのきっかけを教えてください。

駿河：自立する意思があってもその環境のため自立が許されない、生きている場面で一番苦しい状況にある難民

への支援が最重要だと思ったからです。

庄野：10年くらい前にミャンマー難民の方と知り合いました。そして大学で難民問題に関するゼミを受講し、より真剣に難民問題について考えるようになりました。

岩森：大学入学時に『人間の大地』（犬養道子著）を読み、はじめて難民のことを知りました。いわゆるポートビープルとして逃げてきたインドシナ難民の女の子の話に衝撃を受けました。それと出版社に勤務していたとき、緒方貞子先生に推薦文の原稿依頼をさせていただいたのですが、その本が難民支援になるものではなかったので、「難民のために（出版社は）何をしてくださいますか？」と先生から問われたことがずっと心に残り、いつか何かしなければと思っていました。

駿河さん、チャリティ・コンサート開催への思いをお聞かせください。

駿河：すべての人が幸せになれるといいなと考えています。お客様、演奏者、映像・音響・照明・会場スタッフ、企画運営のボランティア、ご家族、援助現場の皆さん、難民の皆さんなど、すべてです。このチームワークが、難民支援という目標に向かって相乗効果を生んだとき、正しい成果と結果が自然に出てくるのだと思います。コン



熱唱する庄野さん

サートの成功は皆さんのご支援とご協力の賜物だと深く感謝しています。今回は庄野さんのご協力により、いつもより盛況でした。庄野さんのメッセージがお客様の心に届き、深く思い出に残る一日になったと思います。

庄野さん、岩森さん、初参加の感想はいかがですか？

庄野：何よりも、皆さんの熱い想いに脱帽でした。音楽を通じて、難民問題に興味のある人となかった人とつながることに感動しました。

岩森：多くの仲間がチャリティに参加されていることに感動しました。私も少しでもお役に立てればと思い、アートセラピーをさせていただきました。私の生徒さんも喜んで手伝ってくれました。今後もぜひ継続して参加したいと思います。

助っ人会員の活動について感じることをお聞かせください。

駿河：皆さんの個性と能力が明確な目標に向かって進んでいくと、不思議なほど大きな成果が得られることを実感します。特に今回の岩森さんのアートセラピーとのコラボレーションは評判が良く、継続したいと考えています。

庄野：みんなで協力できる題材やきっかけがもっとあるといいですね。ボランティア活動の呼びかけに受け身で応じるだけでは自主性が生まれません。プロジェクトチームなどを作って、サークル的に楽しく活動できるといいのではないのでしょうか。

岩森：年齢や職業など違った立場の方たちが同じ志のもとにつながることは励みになります。また、そういう方たちの集まりだからこそ、できることがあるはずだと思います。

難民支援について、今後の抱負をお話してください。

駿河：新しい試みとして、私が勤務するキヤノンのビジネス向けイベントの中に、

UNHCRの寄附＆資料コーナーを開設し、難民支援を呼びかけるお手伝いをしたいと考えています。

庄野：自分の培ってきたものが難民支援に活かせるなら、いろんなシーンで提供したいと思います。押しつけの募金活動ではなく、歌や演奏を聴いていただいて料金以上の感動がそこにあったとき、そのぶん「幸せのおすそわけ」をしてもらうことが理想です。

岩森：アートセラピーを通じてもっとお役に立ちたいと思います。難民の方が描かれた絵を拝見し、おかれた状況の違いにショックを受けました。まずは支援活動をしている方々のお手伝いができればと思います。今、難民に関する絵本製作を助っ人会員有志で進めております。

皆さん、ありがとうございます。助っ人会員の方々が難民支援の輪を広げてください。これからもさまざまな形でご協力いただきたいと思います。よろしくお願いします。

駿河由知(するがよしのり)

「はたらくおじさんおねえさんのチャリティーコンサート」代表。キヤノン販売株式会社勤務。

庄野真代(しょうのまよ)

歌手。代表曲に「飛んでイスタンブール」など。

岩森みすず(いわもりみすず)

アートセラピスト。オフィス・アムール代表。

駿河さん、庄野さん、岩森さんは、第2回「助っ人講師養成講座」の修了生でもあります。

* 助っ人会員とは日本国内でUNHCRの広報・募金活動を支援するボランティアの人たちです。年会費は1万円です。

http://japanforunhcr.org/www/suketo_top.html



アートセラピーコーナーの岩森さん(左)

認定NPO法人 日本国連HCR協会

[国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)日本委員会]

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-70

UNハウス(国連大学ビル)6階 UNHCR内

TEL: 03-3499-2450 FAX: 03-3499-2273

Eメール: info@japanforunhcr.org

ホームページ: <http://www.japanforunhcr.org>

「With you」No.4 2005年 第1号(3月)

発行人: 赤野間征盛

編集: 榎川勝也、中村恵、井上清治、奥平章子

デザイン・製作: 榎ポイントライン

第4回「助っ人講師養成講座」のご案内

日程: 2005年4月7・14・21日(木) 17:00-19:00 場所: UNハウス6階会議室

対象: 助っ人会員の方・全3講座参加可能な方 定員: 10名

募集要項をご希望の方は、HCR協会へEメールかFAXでお申し込みください。